

なり借金の重壓に焦燥してゐるかを知ることが出来るのである。更らに五段百姓と言はれる小作人は小作米を拂つた残りのクツ米で生命をツナギ、それも三月には喰ひつくし、高い米を買はねばならないのであるし、副業によるワスカな収入で生活を立ててゐる有様である。斯うした農村小作人の貧乏化と共に自作農、小地主の困苦も益々増してきてゐる。そして小地主の一丸となつての土地引上がロコツとなり猛烈となつてきた

一方地主は昭和六年から舊地價が地賃賃價格に改正されて税金の負擔がカルクなつてゐるにもかかはらず小作米のツリ上げをやり(三潁郡若津地方)凶作不作の年は勿論、豊作でも喰えないから小作米をマケテ呉れと言ふ小作人の悲痛な要求に對し、地主は頑として應ぜず(福

岡嶺山監督局に勤務してゐる山門郡の大地主木下定)更らに土地引上をもつて小作人の生活をオビヤかし(二日市町の武石銀行、武石政右衛門)また立毛、動産の差押等によつて、小作人を飢餓線にオヒコンであるのであるが土地引上を中心にした争議が福岡縣で本年一月から六月までに一三一件で昨年の同期より十八件を増してゐる。小作農民の生活が益々苦しくなつてゆくと、今年はトクニ六十年來の大旱魃で、福岡縣下六萬町歩佐賀一萬三千町歩は植付けが出来なかつたり、植付けた稻も收穫の見込がなかつたりで、それに一般に三割五分以上の減收を免ぬかれないやうであるが、コノ大旱魃による減收は、小作農民の生活窮乏に拍車をカケ、東北、北陸地方の農民達がワラビの根、麥カスの粉を喰ひ犬猫を殺して